

決意を掲げ力強く宣言

松本秀峰 保護者らの前で立志式



毛筆で書いた言葉を掲げ、決意表明をする生徒

松本市の松本秀峰中等教育学校は14日、まつもと市民芸術館で、「秀峰立志式」を開いた。前期課程(1-3年)修了という節目に、将来の目標などを、全校生徒や保護者らの前で宣言した。

(八代啓子)

3年生83人は、名前を呼ばれると、毛筆で決意を力強くしたためた100枚×40枚ほどの紙を手に、一人一人登壇。「目指せ大学!」「夢の発見」の他、四文字熟語やラテン語の格言、元テニス選手の松岡修造さんの言葉「性格は変えられない。でも、心は変えられる」といったさまざま言葉を掲げ、これまでの反省や活動を話し、後期課程への抱負を述べた。

ベートーベンの言葉「困難を乗り越えれば歓喜に至る」を掲げた原田みなみさん(15)は「家族や部活の先輩、友人がいたから悩みを乗り越えられた。当たり前の日常に感謝し、一日一日を大切に生きたい」。生徒会活動に力を入れた田中葵君(15)は「師を越えろ」を持ち、「尊敬する生徒会の先輩に追いつき、追

越せるよう頑張りたい」と話した。次期生徒会長の中沢冬芽君(4年、16)は「後期課程で1年間学んで、主観と客観の両立が大切と感じた。勉強、部活など忙しい時もあるが、自分を客観的に見つめ、やるべきことをやって、目標達成を願っている」と、激励の言葉を贈った。立志式は3回目。前期課程生徒だけで行う予定だったが、3年生と4、5年生から、決意を聞かせたい、聞きたいといった要望が出、急きょ後期課程生徒の参加も決まった。学年主任の瀬川伸教諭(37)は「本年度の3年生は、クリエイティブで活発。こうしたいとい

ろを失わないよう頑張ってほしい」と話した。立志式後は、前期課程修了式を行った。